

【報告】 12月8日 高槻市  
エネルギー基本計画を脱原発・脱石炭・再エネ大幅導入へ！  
政府交渉にむけて市民の意見をまとめる関西討論集会

地球救出アクション 97 稲岡が取組の経過報告を行った。7月から豊中、高槻等でこの問題の学習討論会が行われた。それを集約する関西討論会にも賛同団体・個人が多く集まただけでなく、それぞれの団体でよく話し合われ理解が広がった。eシフトの取り組みと関西の運動が合流する形になり、気候ネットワーク、反公害環境団体等の石炭火力発電建設反対運動とも協力が進んだ。

「エネルギー基本計画」は日本の当面3年間のエネルギー政策だけでなく、2030年、2050年までの温暖化防止政策の基本方向も決める。事前に経産省、環境省に対し福島参議院議員から関西討論会への出席を要求し断られたが、関西からの異議申し立ては伝えられた。「エネルギー基本計画」見直しの第1回審議会（8月）で世耕経産大臣は「現行の骨格を変えない」としたが、討論し意見を一致させ新しいエネルギー政策を政府に迫ろう。

### プログラム

#### ◎報告

- 1 原発は再生可能エネルギー大幅導入に対立する、脱原発で再エネへ（地球救出アクション97 中西克至さん）
- 2 世論は原発ゼロが多数派、日本も脱原発を決めよう（原発ゼロ上牧行動 坂元朋則さん）
- 3 持続可能な未来のためのエネルギー政策をもとめるeシフトの活動（FoE Japan 吉田明子さん）
- 4 日本で50基も浮上した石炭火力発電所建設計画 ～エネルギー基本計画の見直しに向けて～

（気候ネットワーク 桃井貴子さん）

- 5 各地から さよなら原発なら県ネット/NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会/兵庫の石炭火力反対運動

◎メッセージ 福島みずほ参議院議員（社民党副党首）、辻元清美衆議院議員（立憲民主党）

◎討論・まとめ（1時間半）

## 報告

### 1 原発は再生可能エネルギー大幅導入に対立する、脱原発で再エネへ（中西克至さん）

#### ①現行基本計画の特徴は

ベースロード電源（原子力、石炭、水力、地熱、コストが安く安定的とする）が50%を超える。エネルギー基本計画に基づくという2030年のエネルギーミックス（電源構成）では太陽光、風力は非常に少ない。ドイツではまず再エネから、バイオマス、水力、陸上風力、洋上風力、太陽光、化石燃料の順に系統に入れる。日本では再エネに接続可能量が設けられ、送電線の空き容量がない（発電どころか建設もしていない原発等で予約済）。これでは再エネは増やせない。

#### ②世界の再エネの価格低下

既に再エネの電気は数円/kWhとなっている。日本でもメガソーラーの売電価格の入札で17円20

銭/kWhが付いた。

#### ③原発再稼働の状況

稼働中5基、原子炉設置変更許可済7基、新規制基準への適合性審査中14基（以上26基）で、適合審査未申請19基、廃炉決定15基。26基が再稼働して、60年運転でもエネルギーミックスの22～20%は到底実行できない。それを見越してか、経団連が新增設・リプレースの提案を最近行った。しかし、国の支援策がないと高価な原発建設はできない。その上、再稼働については国民の過半数が反対。

#### ④福島事故は続いている

重大事故、使用済燃料・放射性廃棄物の問題を考えれば脱原発、再エネの大幅導入しかない。

## 2 世論は原発ゼロが多数派、日本も脱原発を決めよう

(坂元朋則さん, 原発ゼロ上牧行動)

10月に高槻の私の家でこの問題で少人数の学習討論会をやって非常に良かった。それでこの討論集

会を企画した。今日は報告を聞いて、じっくり討論してほしい。私は討論で発言します。

## 3 持続可能な未来のためのエネルギー政策を求める e シフトの活動 (吉田明子さん, FoE Japan)

### ①3.11 の後

e シフトというネットワークを作った。脱原発、新しいエネルギー政策を実現する会、フクシマの被害をこれ以上拡大しないことをめざす。去年の2月から「エネルギー基本計画」見直しに対応をはじめた。

### ②脱原発を決めさせた討論

2012年国民的議論の結果、日本は脱原発を決めていたが、全く無視されている。無差別に選ばれた人が討論を行って結論を出す「討論型世論調査」では、脱原発の結論になった。経産省・環境省が来て市民の意見を聞く会も行われた。2014年の現行「エネルギー基本計画」決定では意見は聞かれなかった。

### ③2014年から日本と世界は変わっている

経産大臣は変えないと言うが、原発の再稼働は遅れている、省エネが進み電力不足なし、再エネの増

加(2015年度14.5%)、東芝問題、原発輸出も進まず、もんじゅ廃止、脱石炭の流れ、世界は脱原発。

見直し審議会の政府資料でも「変化」は言っているが、資源の乏しい我が国、地政学上のリスクなどと原発推進を正当化している。原発に批判的な委員は辰巳さんだけ。エネルギー情勢懇談会も枝廣淳子さんだけ。国民の60%が原発に反対しているのに。

### ④4月を越え、政府に対する運動を上げよう

e シフトとグリーン連合は6月16日に政府に要請を行った。政府、電力業界側の主張はS+3Eだが、私たちは、経済性、エネルギーの安全保障、環境を考えれば、「原発止めて再エネへ」と主張している(リーフレット参照)。政府による見直しは少し遅れている。第2回の審議会合会では取りまとめは4月を超える見込みとされた。

## 4 日本で50基も浮上した石炭火力発電所建設計画 ~エネルギー基本計画の見直しに向けて~ (気候ネットワーク 桃井貴子さん)

### ①2014年からの一番大きい変化は

「パリ協定」が1年で発効したこと。アメリカが脱退を決定しても世界はどんどん進んでいる。しかし、現状では全部の国の目標を足しても2°C未満達成には全然足りない。高効率石炭火力の最新型でも天然ガス発電の2倍以上CO2を排出する。発電した電気は再エネより石炭が高くなっている。電力業界の自主的取組では効果が出ない。これが世界の投資家が石炭から撤退する理由だ。日本の削減目標は大変低く、2020年目標は既に達成してしまった。

### ②世界は脱石炭

12月ボンのCOP23で「脱石炭をめざす国際連盟」ができ、27の国・州が加入した。画期的だ。ところが、日本には2012年以降の石炭火力新設計画50基ある。100基が現存しているうえに。石炭火力のCO2排出量を足し合わせると、2030年ころ

ピークになる。環境省も「2030年削減目標を越えてしまう」と困っている。

### ③元凶は現行「エネルギー基本計画」

石炭火力を推奨する2014年「基本計画」が元凶だが、その前にはアベノミックス「火力発電推進、世界へ展開」がある。

### ④石炭火力建設とバランスをとる原発稼働

石炭火力で増加するCO2は、排出ゼロという原発の稼働でバランスをとる。電気小売業者には2030年に非化石電源比率44%が課されている。石炭火力と原発は一体のものとして推進されている。

44%の計算にも抜け穴がいっぱいで、石炭にバイオマスを混ぜると効率が異常に高くなる。

大きく転換を求めたい。環境、パリ協定の両方から石炭火力建設を止めることが重要。

## 5 各地から

### さよなら原発なら県ネット

#### 榎本恭一郎さん

奈良は木の国、だが山の管理ができていない。天川村では良い方法をとっている。間伐材を取り出して運んで来たら軽トラいっぱいでも 5 万円の地域振興券をだす。振興券は地域の店や公衆浴場で使える。浴場の燃料に間伐材を使う。ボイラーも日本製だ。

最近、六ヶ所村見学旅行を行った。自然エネルギー推進も脱原発もあわせて取り組んでいる。

### NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会

#### 中川慶子さん

市民運動で発電所を作り株式会社にした。市の方でも「宝塚エネルギー2050年ビジョン」と条例ができた。2050年再エネ100%が目標。宝塚の会は学習会や出前授業も行っている。

太陽光発電 1号は小さいが、3号は宝塚市のモデル事業である。4号は農地の上にパネルを置き、5号は中古パネルを乳業会社の屋根に置きすみれ発電に15年契約で売る。今年度10号までいく。

西谷地区は農村地帯で人口3000人を切っているが、酪農がありバイオマスの可能性もある。発電し自家消費の方向で考えている。

日本で再エネが伸びない理由は、政府の目標値が

低い、再エネコストが下がらない、託送料金が高い、財源不足・経験不足などと考えられる。

世界の投資は再エネへ向かっている。再エネ100%宣言の国、企業も出ているが日本は政府が古い。近く、尼信の再エネプログラム、滋賀エネルギープログラムから講師を招いて学習会を行う。

### 兵庫の石炭火力反対運動 高橋武三さん

神戸では神戸製鋼の石炭火力2基が動いている。震災復興のどさくさのうちに作られたもの。これから3、4号基を作る。住宅密集地に巨大石炭火力が4基。黒い煙は見えず、反対運動がむずかしい。

神戸製鋼に「CO2はどうするのか」と聞くと、「全量関電に売るので関電さんの仕事」と答える。神戸製鋼が、関電に聞いて答えたところでは、「原発が稼働すれば石炭を燃やせませす。事業所（電力販売会社）ごとにCO2排出量を計算するので大丈夫」。この追及で明らかになった。原発と石炭火力は兄弟だ。

安倍総理は先日、沖縄の帰りに神戸製鋼に行っている。市長らとも会合し、石炭火力推進を約束した模様だ。県知事からは、建設に対して（反対の）意見が出ている。

住民側は、公害調停を県の審査会に申し立てる。兵庫県の人は参加してほしい。

エネルギー基本計画見直しへ運動が必要だ。

## 討論・まとめ

集会後の感想では討論形式への評価が高かったです。もっと工夫して、多くの人が発言できて良い結論が得られる形を発見したいと思います。

討論の雰囲気を感じられるよう、順に要点を採録しました。文責はSEA事務局、主催者と報告者は実名です。

### 【風力発電】

Y：風力発電の功罪を教えてください。滋賀の田舎に外資系の風力発電が進められている。

稲岡：世界的には風力発電が進んでいる。太陽光より安い。人の住んでいるところでは問題が起きることがある。鳥も落ちる。北海道、東北は適地と言われている。洋上はこれからで、陸上の2倍くらいの値段。風力は夜も発電でき太陽光を補う。反対運動も起きているので条件を考えないと。

K：和歌山県ではかなり前に100基の計画があると聞いた。それくらい建設された。低周波の影響もあるだろうが、そういう話は聞いていない。しかし、夜が来るとぴかっと光る。シカやイノシシが人里へ出てくるのはそのせいかな？

S：リニアに反対している。エネルギーの消費を抑えることが第一だと思う。風力発電の光のせいではなく僕らが地球環境をおかしくすることが動物に影響を与えているのではないかな。

高橋：鳥が落ちないように改良されたものもできた。

### 【原発と石炭火力発電は双子の兄弟】

坂元：小出さん、広瀬さんは原発を止めることが第一で他はいつでもよいと言っている。原発を進めるために石炭をとにかく言っているのではないかと言う人もあるが、どうなのか。

稲岡：推進は高効率石炭火力を開発したメーカーの利益を確保するためだろう。安倍総理はその代表者。

燃料の上流を抑えよとの政策で石炭鉱山、油田、流通などを抑えた商社の利益も守っている。

T：安倍晋三は神戸製鋼とつながっている。

桃井：前の「エネルギー基本計画」には自主開発エネルギー比率を高めるとあった。原発と石炭、やりたい勢力は同じ。原発・石炭両方止め、省エネと再エネをしっかりと進めていくのが重要だ。

稲岡：原発・石炭と再エネは相いれない。ベースロード電源と再エネも相いれない。

中西：原発、石炭火力はともに設備費が高い。鉄鋼、重電メーカーは両方で利益を得ている。両方海外に売り込むのが安倍の成長戦略。売り込むためには国内でも推進する必要がある。

原発を維持するために再エネ電源に「接続可能量」が設定され、送電線の空ゼロが作られている。また、3.11 前と比べて石炭火力を増やしている。現行「エネルギー基本計画」では途上国では石炭火力が増加するとしているが、それは本当か。パリ協定制定により途上国で石炭火力からの脱却が進んでいる。

稲岡：EU等は石炭を手放している。それを日本の商社などが買い集めている。座礁資産になるものを子孫に押し付けることになる。世界では原発からも撤退が進んでいる。日本では原発は非化石電源と推奨されている。原発に反対する小泉さんが出てくるのは当たり前。安倍首相は日本沈没させるのか。安倍さんに任せておいて良いのか。

坂元：電力会社も原発を止めたがっているという意見もある。政府、政党のなかにも止めたい人はあるのではないか、どうすればよいか。

高橋：石炭も原発も儲かる組織がある。関電も儲からなくなれば原発を分社化するのではないか。今は両方持っておく方がおいしいということだと思う。

九州電力が再エネ接続制限を行った。必ず他も追随することになる。

「エネルギー基本計画」の S+3E を理由に原発推進、地層処分説明会でエネ庁が同じことを言った。

### 【原発は国の優遇政策で利益を出す】

N：関電は本当は原発止めたい状況にあるが、政府の優遇政策によってやれるようにされているため動かすことで利益を稼ごうとしている。原発建設費が一番高く負担が大きいのが、総括原価方式や利益を上げる税制があり、新電力にも原発コストを負担させる託送料金上乗せを進めている。廃炉費用も託送料金にのせることが計画されている。フクシマ事故の補償費すべて電気料金に転嫁される。全部電力会社の利益が保証される仕組み。自由競争の下で原発は成り立たない。重大事故が起きてもすべて国民に転嫁される仕組みがあるから原発が推進される。

### 【電力自由化】

M：電力の自由化は「関電はいらないというチャンスだ」ということだったが、あまり進んでないのではないか。誰でもできる運動を教えてください。

稲岡：電力自由化は経産省が進めている。電気を安くして産業を活性化させるということだったが、安くなっていない。

吉田：自由化がうまくいっていないと言うが、1年半たって6%が切り換えた。東電エリアでは9%、関電では8%、そんなに悪くない。高圧・中圧を含めると12%。自由化前は5%だった。東電、関電は必死になっている。エネルギーシフトの運動はしっかりやるべき。

高橋：関西エリアはコープ電気がよい。生活クラブエネルギーはほぼ100%再エネ。

### 【炭素の価格付け】

C：日本に現在炭素税はあるが、低い。北欧並みにということか。

桃井：炭素の価格付け、今、環境省で「カーボンプライシング」という会議で検討されている。今の石油石炭税は石炭に安く設定されている。炭素税はフランス等では1万円/tで議論されている。

排出量取引も1つの手法、企業の排出量の枠を決めて、越えた場合はよそから買う。お金で解決させ

る。排出枠を低くしていった全体の排出量を減らす。上の会議では大企業からという議論がされている。

C：取引が金儲けに使われないか。

桃井：枠を厳しくすれば買占めとかはなくなる。

稲岡：うまくいくことが世界では明らかにされている。日本の低い燃料税でも効果があるということだ。有害物排出を減らすには規制の措置と経済的措置がある。70年代に公害で使われたのは規制の措置。規制には人手、費用がかかる。炭素税や排出量取引はうまく金額を設定すればマイルドに目標を達成できる。企業ががんばりたくなる効果的政策と言われる。

T：自然エネルギーに転換する政策を政府にやらせないと効果が出にくいのではないかな。

稲岡：進まないのは再エネが安くないから。再エネを弾圧するような政策を止めて自然に再エネに切り替わるようにしなさいと言うのが私たちの要求。

坂元：全て再エネの電気、理想的なものにしようというのは反対。とりあえず脱関電、これが運動ではないか。切り替えは原発の関電にとっては大打撃。

### 【太陽光パネルの廃棄物は？】

W：再エネ、太陽光発電、パネルの最終処分はどうなるのか。

吉田：17年で廃棄すると大量廃棄になる。30年40年長く使うことができる。課題はパネルの材料をどう分離するか、九州ですでに試みられている。再生は放射能が入っていないのでやりやすい。

W：開発途上国に廃棄するのではないかな？

中川：リサイクルのルートはできている。

稲岡：パネルは20年の減価償却以降は丸儲け。

O：送配電分離に対して、公有化を要求する理由は？

稲岡：私企業に管理できるものではない。EUでは公

社が国境を越えた送電網を建設、管理している。

O：昔、日本では配電会社と発電会社に分れていた。民間でできるのでは？

S：それは国策会社だったのではないかな？法的分離、所有分離等の問題もあるが、今日は置いておこう。

N：国の政策を変えさせることが重要で脱関電は無意味と言われたが、これはどちらもやらないといけない。関電の去年冬の予備電力は20%だった。大飯3、4号が動けば、予備率50%になる。電気が余り、関電は原発を動かさなくなる可能性もある。

### 【最後に】

A：脱原発や避難者のことに関わっているが、石炭の問題はあまり頭になかった。フクシマ事故2年後に入学し、大学で環境学を学んだ。大学で「原発はやめられない」と先生が言っていた。石炭を燃やすのは困るのでということだった。役に立つ1日でした。

榎本：風力は自分のものなら不愉快でない。再エネは地元利益のあるものでなければならぬ。

オール電化の家は脱関電のネックになっている。電気を使うのに熱を捨てるのは不合理。熱は熱として使うことを奈良では考えている。

G：電力はエネルギーの質が高い。電気として使うべき。

稲岡：再エネ100%への道の議論はできなかったが、EUは進めている。

時間を多くとり議論が進んだが、考えながら議論するにはもっと時間が必要。今日はみんなの意見がかなり一致していた。もっと幅広く、ちがう人とも良く議論して一致させていく。政府とも議論する。

政府交渉、署名などの運動を行い、また、次の討論の場を作りましょう。

賛同：I 女性会議大阪、アンナ・プロダクツ、NPO 法人新エネルギーをすすめる宝塚の会、科学技術問題研究会、春日直樹、環境フォーラム市民の会（豊中）、関西よつ葉連絡会、気候ネットワーク、北川 諭、木村英子、原子力資料情報室、原発ゼロ上牧行動、原発の危険性を考える宝塚の会、原発はごめんだヒロシマ市民の会、国際女性年連帯委員会、災害避難者の人権ネットワーク、さかいユニオン、佐野米子、さよなら原発なら県ネット、ストップ・ザ・もんじゅ、戦争！あかん 尼崎女たちの会、高橋武三、高橋もと子、脱原発高槻アクション、ちよぼちよぼ市民連合、中沢浩二、奈良脱原発ネットワーク、日本消費者連盟反原発部会、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン、反戦タイガース兵庫、ヒバク反対キャンペーン、ふえみん婦人民主クラブ、待ちなはれ！京都にも米軍基地はいりまへんの会、松下昌子（元なんぞな原発学習会）、松田幹雄、美佐田和之

以上、「地球救出アクション97」のニュース SEA120号より（軽くするために写真を抜きました）  
連絡：072-336-7201 稲岡美奈子 Email:minako-i@estate.ocn.ne.jp